

国際救急医療

無線通信取扱い手引書

(赤十字委員用無線取扱い要領)

昭和58年6月

国際協力事業団
医療協力部

医学
J R
83-24

000
92
MCF

JICA LIBRARY



1015447E4J

国際救急医療
無線通信取扱い手引書
(赤十字要員用無線取扱い要領)

昭和58年6月
国際協力事業団
医療協力部

国際協力事業団	
発 行 日 84. 5. 22	000
登録No. 06815	92
	MCF

はじめに

救急医療チームが派遣された際、医療活動を迅速かつ効果的に行うためには、相手国機関、他の援助チームなどと関係をとることは大切である。

関係の手段については、従来、JMTDRの委員会の場を通して議論されてきたところであるが、このたび、日本赤十字社から恰好なる資料の提供を受けた。

日本赤十字社外事部が翻訳した赤十字社連盟1982年版付属第11「赤十字社連盟代表マニュアルー赤十字要員無線通信取扱い要領」であり、救急医療チームにとって貴重なる内容のものである。

これを印刷し、JMTDRの資料として役立てたい。

医療協力部

部長 中澤 幸一

目 次

はじめに

1. 無線通信の目的	1
2. 無線網	1
3. 無線（電話）の取扱い手順	2
4. 無線通信の確立	8
5. メッセージの本文	8
6. メッセージの構成	9
7. 連絡の確立	12
8. 感度報告	13
9. アマチュア無線局を通しての連絡に 関する注意	14

1. 無線通信の目的

無線通信の第一義的目的は、連盟との間に必要な通信を確保することであり、通信手段としては二次的なものである。

無線通信は一次的通信手段であるテレックス、電話等に対するものではない。

種々の任務の特別に必要とされることから、ある場合には補助的な通信手段が必要とされることがある。

この目的のために勧められる補助的な通信手段は、その任務に固有な必要なものであり、一般的な方法と対するものであってはならない。

これら通信手段の利用者は、無線規則、あらゆることを包含している国際無線通信条約付属書が関連するあらゆる場合に適用されることに注意することを要する。

2. 無線網

大規模な救援活動には、ICRC HBC-88の無線局と定期的に連絡する無線基地局が設置され、連盟事務局と現地の派遣団との無線通信手段を確保する。

1ヶ所もしくは複数無線局が派遣団用のグループとして設置され、同一活動地域内代表との間ないし本部と離れて設置された事務所及び現地派遣団との間の通信を確保する。

通常、無線通信網は、一定量の基本器材の備えのあるICRC

の通信サービスとの調整がはかれる。

3. 無線（電話）の取扱い手順

1) 一般に無線（電話）通信は英語でなされる。

特定の地域で、英語以外の言葉を使うことが地域的に同意されることもある。

必要な場合、無線担当官の監督の下に通訳が入って無線交信することが許される。

2) 送信技術

送信は通常の会話の調子で簡潔に行う。できる限り標準の言いまわしを使うようにする。

数字、名前もしくは複雑な語が正確に受け取られたことを明らかにしたい場合、次の方法のいずれかをメッセージを送った人々が行う。

a) 下記の3)及び4)に従って、数字、言葉もしくは名前を繰り返す。

b) 受信人に、数字、言葉、名前のすべてを繰り返すよう依頼する。小数点のある数字の場合「小数 (DECIMAL)」の語を入れて、下記の4)に述べられているように数字を言うこととする。

3) 無線（電話）

固有名称、各公庁の略語、綴りの疑わしい語を無線で綴る

場合、以下のアルファベットを用いる。

A - Alfa	J - Juliette	S - Sierra
B - Bravo	K - Kilo	T - Tango
C - Charley	L - Lima	U - Uniform
D - Delta	M - Mike	V - Victor
E - Echo	N - November	W - Whisky
F - Foxtrot	O - Oscar	X - X-Ray
G - Golf	P - Papa	Y - Yankee
H - Hotel	Q - Quebec	Z - Zulu
I - India	R - Romeo	

4) 無線（電話）による数字の送信

1000の単位を除くすべての数字は、各桁を個々に発音して送信する。

1000(thousand)の語を用いる際は、「THOUSAND」と発音する。

例	数	読み
	20	Two Zero
	85	Eight Five
	471	Four Seven One
	13000	One Three Thousand
	61673	Six One Six Seven Three

5) 専門用語

意 味

ALL AFTER

私が言及するメッセージの部分は
……に続くことのすべてです。

ALL BEFORE

私が言及するメッセージの部分は
……に先立つことのすべてです。

CORRECTION

a) この送信に誤りがありました。
送信は正しく送られた最後の語か
ら続けます。

b) この送信(または指摘したメ
ッセージ)に誤りがありました。
正しい文は……

c) 貴方の確認問合せ回答として
正しい送信は以下の通りです。

DISREGARD
THIS
TRANSMISSION

この送信は誤りですので、無視し
て下さい。

完全に送信され、その受信が確
認されたメッセージを取消す際
に、この用語を使ってはならな
い。

SAY AGAIN

a) 最後の送信をすべて繰り返して
下さい。

b) ALL AFTER, ALL BEF-

	ORE, WORD AFTER, WORD BEFORE 等の用語との関連で使うこともある。このような指定のあとに続いて使われる場合は、「指摘されたメッセージの部分を繰り返して下さい」を意味する。
SEND YOUR MESSAGE	MESSAGE FOLLOWS への回答。どうぞ送信して下さい。書き取る用意ができています。
SEND	送信をどうぞ、聞いています。
SPEAK SLOWER	送信のスピードが速すぎます。送信スピードを落して下さい。
TEXT BEGINS	メッセージの中の本文の部分は以下の通りです。
THAT IS CORRECT	a) その通り b) 送信内容はその通り。
THIS IS	この送信はその呼称がすぐ後に送る局からのものです。
TIME (あるいは DATE AND TIME)	この後すぐに送るのは、このメッセージの時間または日時です。
TO	この後に続く指定受信者はこのメッセージで行動をおこすこととな

	っている。
VERIFY	メッセージすべて（もしくは指定個所）を、発信人に確かめて、正しい文を送ること。
	問題のメッセージが指定している受信者の任意に、もしくはその受信者によってのみ使用される。
WAIT	一寸待って下さい。
END OF MESSAGE	これで今送信したメッセージとそのメッセージに付随するメッセージ指示が終了します。送信の終了は「OVER」または「OUT」の語で示す。
END OF TEXT	メッセージの本文は終了。しかし、すぐ続くメッセージ指示を待つこと。
FIGURES	数字もしくは番号が次に来ます。
FROM	このメッセージの送信人は次に来る宛名称で示される者からです。
INFORMATION	すぐ次に来る宛先に送られる、もしくは参考までに送達されます。
I READ BACK	以下はあなたの読み返せの指示に

I SAY AGAIN

従うものです。

送信文または指示箇所を繰り返します。

I SPELL

次の語を発音で綴ります。

I VERIFY

次のことはあなたの要請で確かめたものであり、繰り返します。

「VERIFY」への回答としてのみ使用される。

MESSAGE
FOLLOWS

記録を必要とするメッセージが以下に続きます。コールの後すぐに送信。

OUT

これで私の送信は終わります。回答はいらない、もしくは期待されていない。

OVER

これで私の送信は終わります。回答が必要である。

READ BACK

この送信全部を受信した通り正確に私に送り返して下さい。

RELAY TO

このメッセージをすべての宛先人または以下の宛名に送信して下さい。

ROGER

メッセージを受け取り、了解しま

	した。御指示通りにします。
WORD AFTER	私が言及しているメッセージの語 は以下の通りです。
WORD BEFORE	私が言及しているメッセージの語 は……に先立つものです。
WRONG	あなたの最後の送信は間違っています。正しい文は……

4. 無線通信の確立

送信の前に、各局は有害な妨害を起こさないことが確認できるように十分長い間聴取していなければならない。

このような妨害が起こりそうな場合には、その局は妨害しそうな送信の最初の切れ目まで待つべきである。しかし次のような場合には進行中の送信を中断させることもある。

- 送信の時間が長く、中断したい局が送信優先順位の高いメッセージをもっているとき。
- 受信局が進行中の送信を正しく受信できないことを送信局に知らせたいとき。
- 特別な事情で、中断するのが望ましいとき。

5. メッセージの本文

- 1) 特別な「コード」あるいは「略語」をメッセージ本文及び

署名に使うことは赤十字ネットワークでは許されていない。

局の担当オペレーター（無線担当官）は、メッセージの送信を引き受ける前に、発信人の原稿が明確に書かれており、その構成に何らの疑問がないことを確かめねばならない。

2) メッセージの本文は「平易な言葉」で書かれねばならない。

発信人は重要でない語や句、例えば儀礼的な表現は避けるべきである。

3) メッセージはすべて読み易く、次の「字体」で書くこと。

文 字： A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U
V W X Y Z

数 字： 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

その他： (/) (:) (=) (CMA) (STOP) (QUOTE)
のサイン： (UNQUOTE)

上記以外の句読点やサインは用いない。

6. メッセージの構成

メッセージはすべて次のような順序で組み立てるようになる。

- 前 文
- 宛 名
- 本 文
- 署 名

1) 前文は次の順序で組み立てること。

—メッセージの発信人の呼称

(LICROSS, ICRC, JAPANCROSS 等)

—発信地

(KAMPALA, BANGKOK, MANAGUA, TOKYO 等)

—メッセージの一連番号

(No 35)

—語数

(CK 177)

—発信日時

(12/4/83 1830 Z) Z = GMT

メッセージの発信人の呼称

赤十字関係機関の組織を示し、赤十字国際委員会のメッセージ・センターがジュネーブの連盟事務局に情報を送るうえで重要である。

発信地

平易な語または受信局の許可を得たその識別形式で入れるべきである。

メッセージの一連番号

通信業務の継続性のチェックができる。メッセージ番号は一つの局から他の局へ送るすべてのメッセージにつけること。

語数

宛名、本文、署名の語数を表示する。

発信日時

GMT(世界標準時)で日付、時間群を示す。

2) 宛先は以下の順序で構成される。

— 組織名 (LICROSS, ICRC, SWEDCROSS 等)

— 宛先地 (GENEVA, STOCKHOLM 等)

— メッセージの送達されるべき宛先の組織の中の人の名前、

課、部または局

3) 本文は上記5に従って原稿がつくられねばならない。

4) 署名はそのメッセージを発信した個人の姓または組織の略語名とする。

5) 典型的なメッセージの構成例は

LICROSS ASMARA No 37 CK17 25/7/80 09452

LICROSS GENENA

FOR VITTANI

REQUEST INFO ON LATEST SHIPMENT OF

MEDICAL SUPPLIES REFY 175 STOP

ROBINSON LCR

7. 連絡の確立

呼び出し：Red Cross One this is Red Cross Two how do
you read OVER (赤十字1、こちら赤十字2、感
度いかがですか、どうぞ)

応 答：Red Cross Two this is Red Cross One I read
you 3/5 OVER (赤十字2、こちら赤十字1、感
度3です、どうぞ)

送 信：Red Cross One from Red Cross Two ROGER
I read you 5/5 I have one message for you are
you ready to copy OVER
(赤十字2から赤十字1、了解しました。感度5で
す。メッセージがあります。記録の準備はできてい
ますか、どうぞ)

応 答：Red Cross One ROGER go ahead OVER
(赤十字1了解、メッセージをどうぞ送信して下さ
い、どうぞ)

送 信：ROGER LICROSS ASMARA No 37
(了解、連盟アスマラ37号.....)

会話の流れは続けられ、メッセージ全体または部分の終りに
はOVERの語をつけること。

送信の終りには次のようなやりとりをする。

Red Cross One from Red Cross Two end of

transmission OVER

(赤十字2から1、送信を終わります。どうぞ)

応 答：Red Cross Two from Red Cross One ROGER

message received OVER

(赤十字1から2、了解、メッセージ受け取りました、どうぞ)

送 信：Red Cross One from Red Cross Two ROGER

signing OFF

(赤十字2から1、了解、通信終わります。)

応 答：Red Cross Two from Red Cross One ROGER

signing OFF

(赤十字1から2、了解、通信終わります。)

8. 感度報告

通常使われている感度の質と信号の強度の報告は、つねに無線交信の始めに交信局間で交換する。最初の数字は1-5の5段階があり、受信感度の全体の質を表示する。

1 = 悪い

2 = かなり悪い

3 = かなり良い

4 = 良い

5 = 非常に良い

第2の数字も1-5の5段階であり、受信した信号の強度を表示する。

1 = ほとんど感じない

2 = 弱い

3 = かなり強い

4 = 強い

5 = 非常に強い

9. アマチュア無線局を通しての連絡に関する注意

アマチュア無線局を通して赤十字国際委員会のHBC-88と連絡をとるためには、次の手続きを踏むことを要する。

- 1) アマチュア無線局の持主に、国際無線規則(WARC-79)の決議640により、自然災害及び非政治的紛争の場合に、アマチュア用に割当てられた周波数帯を使うことが認められていることを知らせること。

アマチュア用周波数帯は国際プランまたは通知手続きにより拘束されておらず、したがって緊急時の短期間の使用に適している。(訳注)

- 2) 他の免許をもったアマチュア無線局、できればスイスにある局を呼び出し、ジュネーブの赤十字国際委員会HBC-88の無線局と陸上通信で直接の連絡をとるよう依頼すること。

電 話

月曜日～金曜日 0700 GMT～1700 GMT 022/558636

土曜日＋日曜日及び休日 24時間 022/346001

3) 次のことを明確に通知すること。

- － GMTでの最初の呼び出し時間
- － 用いた周波数帯MHz
- － 関係した無線局のコールサイン
- － 次回可能な連絡の周波数と時間 (MHz + GMT)
- － 送達すべきメッセージ (もしあれば)

4) メッセージの構成 (上記6参照)

- － 前 文
- － 宛 先
- － 本 文
- － 署 名

(訳注) 日本国内においては、たとえ緊急時においてもアマチュア用に割当てられた周波数を逸脱しての通信は禁じられている。

